



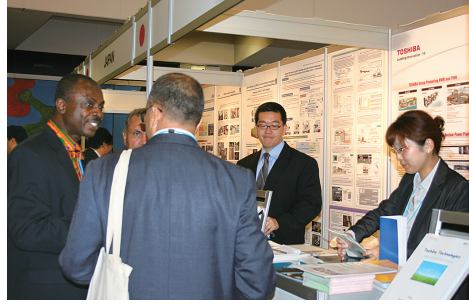
# 原子力産業新聞

2013年9月26日  
平成25年(第2688号)  
毎週木曜日発行  
購読料1年分前金(消費税、国内送料込)  
会費 9,500円(1部220円)  
非会費 15,000円(1部350円)  
(当会会費は年会費13万円に本紙購読料の9,500円を含む。1口1部)

発行所 日本原子力産業協会

〒105-8605 東京都港区虎ノ門1丁目2番8号 虎ノ門琴平タワー9階 郵便振替 00150-5-5895  
電話 03(6812)7103 FAX03(6812)7110 ホームページ <http://www.jaif.or.jp/> メールアドレス [shinbun@jaif.or.jp](mailto:shinbun@jaif.or.jp)

昭和31年3月12日第三種郵便物認可



**日本の取り組みなど展示、説明 IAEA総会にブース**  
IAEA総会開催中の十六日から二十日まで、IAEA会場内の円形広場で各国ブースによる展示会が行われた(写真)。

日本ブースでは昨年も出展した原産協会、日本原子力研究開発機構、放射線医学総合研究所のほか、資源エネルギー庁と東京電力が福島第一発電所事故への取り組みを解説する展示説明を行った。原産協会のブースでは、昨年引き続き東芝、三菱重工、日立の三原子炉メーカーを紹介したほか、日本の原子力界の全体像を示すパンフレットを作成して、新規原子力発電導入への支援や国内外の人材育成などの取り組みについて説明した。

## 安倍首相、福島第一を視察 「廃炉の安全対策万全に」

汚染水対策 14年度中 現場重視の予算措置も



安倍晋三首相は十九日、福島第一原子力発電所を視察し、汚染水対応に従事する作業員らに「過酷な仕事だが、日本の未来は皆様の双肩にかかっている。国としても前面に出てしっかりと使命を果たしていきたい」と激励し、事故対応に全力を挙げ、取り組んでいく決意を述べた(写真)。安倍首相の訪問は、就任後、一二年年末以来だ。多核種除去装置の増強も含め、一四年度中にすべての汚染水浄化を完了できるように取り組んでいくとコメントした。5、6号機廃炉については、関係者の英知を集め年内に判断するとした。

「責任あるエネルギー政策の構築を」ベトナム支援にむけ  
十一日の原子力委員会、国際原子力開発の高橋祐治・業務執行取締役はベトナムへの原子力支援について活動状況を報告。また同氏は、今後の支援活動に際して、①責任あるエネルギー政策の構築②原発輸出を国家戦略に据えたトップセールスと省庁横断の司令塔機能の強化③戦略国との原子力協定の締結加速④公的金融(JBIC/NEPCO)等の拡充⑤原子力損害の補完的補償条約(CSC)への早期加盟

## 新潟県知事と会談

廣瀬東電社長 柏崎刈羽の安全対策説明

東京電力の廣瀬社長が二十五日午後、新潟県の柏崎刈羽原子力発電所を訪問し、柏崎刈羽原子力発電所6、7号機の安全審査申請の了解を求める文書を受け取りこの日の会談を終えた。

二十五日の原子力規制委員会、福島第一原子力発電所における多核種除去設備(ALPS)の補修について報告された。A、B、Cの三系統のうちA系統で六月、処理前の汚染水をためるタンク外側に汚染が確認されたため、順次停止して、汚染水対策の技術提案を公募(経産省、HD開設)経済産業省は二十日、福島第一原子力発電所汚染水対策への具体的対応策について説明した。泉田知事は説明を聞いて、預かっていたと、廣瀬社長から6、7号機の安全審査申請の了解を求める文書を受け取りこの日の会談を終えた。

「責任ある対応」、「有望な最終処分方法」、「将来の柔軟性について」これまでの論点を整理し意見を求めた。処分方法では、地層処分、海洋投棄、氷床処分、宇宙処分他、各種オプションに対する海外諸国の評価と、日本での検討状況を対比し、実現可能性やリスクなどを説明し、「現時点で見解の蓄積が進んでいる最終処分方法は地層処分」との認識を改めて示した。一方で、将来世代の柔軟性に関し、「可逆性・回収可能性については、事故発生以降の原子力科

三系統の状況を調査、それぞれに腐食が見えられたため、腐食防止等の対策を検討、実施してきている。原子力規制庁では、東電の腐食防止等の対策は現時点の知見に照らし概ね有効としている。東京電力は、同日夕方汚染水・タンク本部会合で、二十七日からC系統のホット試験を開始、以降、A、B系統も準備ができた次第、ホット試験を再開するとしている。

事故収束に最大限注力と所感 田中規制委員長  
原子力規制委員会の田中俊一委員長は十九日、規制委員の発足一年を機に、これまでの活動を振り返り、「福島第一原子力発電所の状況は不安定なまま」と述べ、福島第一の復興、事故の収束は、「必ず克服できるし、克服しなければならぬ」として、最大限の努力を傾注するとの所感を発表した。田中委員長は、所感の

中、一二年九月十九日の同委員発足を、わが国原子力規制行政の歴史を開く日」と振り返り、そのスタートは「暗中模索」だったと述べ、ようやくあり方が確立されつつあるとの実感を示した。また、新規制基準、災害対策指針については、より実効性あるものとなるよう取り組んでいくとの決意を述べたほか、「安全神話を払拭し、新たな安全文化を構築する」ことを最大の課題ととらえ、今後も努力を積み重ねていくとしている。

地下水等の挙動把握——イトは、IRIDを中核として、技術提案を①汚染水貯留②汚染水処理③港湾内の海水の浄化④建物内の汚染水管理⑤地下水流入抑制の敷地管理⑥理解促進に向け、今後設置される予定の「地層処分技術WG」に対し、「なぜ地層処分を選ぶのか」わかりやすい議論を期待する声もあった。

### この一週間の出来事

- (19日(木)～25日(水))
- 規制委、新基準適合で川内の現地調査(20日)
- 浜通りで震度5弱の地震、原発異常なし(20日)
- 安倍首相が北米渡航、国連総会出席他(23日)

### 原産新聞の紙面から

- ◇国内ニュース
  - ・浜岡3、4号の新基準適合で追加対策発表(2面)
  - ・IAEA総会で教育関連サイドイベント(2面)
  - ・工学アカデミーで事故検証が討論(2面)
  - ・放医研、PET技術で認知症克服に期待(4面)
- ◇海外ニュース
  - ・仏首相、原子力税で再生可能エネ支援へ(3面)
  - ・NRC委員長権限の分散で議員が法案(3面)
  - ・仏電力・安全監査部ミッションが来日(3面)

## 世界で最も信頼されている原子力産業情報誌

Nuclear Fuel / ニュークリアー・フューエル

プラッツ・ニュークリアー・フューエルは、全世界の核燃料サイクル情報を網羅した情報誌です。原子力産業界の政策や価格動向について鍵となる情報を、隔週で提供しています。

Nucleonics Week / ニュークレオニクス・ウィーク

1960年の創刊以来、プラッツ・ニュークレオニクス・ウィークは原子力発電業界の意思決定サポートツールとして、業界に不可欠な産業ニュースを正確かつ客観的にお伝えしています。

弊社サービスについてはプラッツ東京オフィスまでお気軽にお問い合わせ下さい。  
営業代表番号(担当:新藤・吉川)/03-4550-8300 Eメール/[tokyo@platts.com](mailto:tokyo@platts.com) ホームページ/[www.platts.com](http://www.platts.com)



### プラッツについて

プラッツはニューヨーク証券取引所に上場するマグローヒルカンパニーズの一員で、エネルギーや金属市場の情報を配信する世界最大規模を誇る独立系通信社です。